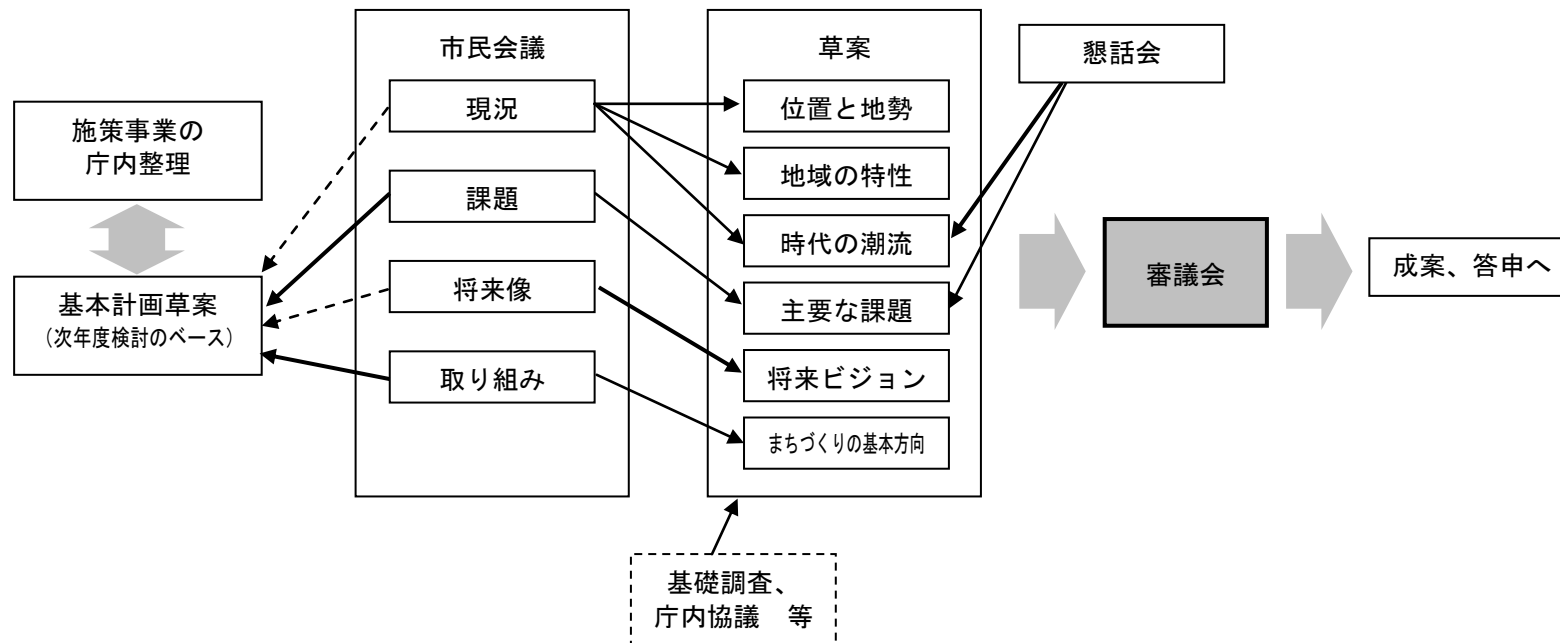


総合計画（現況課題・基本構想）草案における 市民会議意見の対応について

[対応表]



【現況】 …… 「位置と地勢」「地域の特性」における対応を基本としています。

第1部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
人権意識が高い		<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権や環境に対して意識が高い人が多い ○ 人権が守られている
都市化と自然環境が程よく調和している		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農産地と市街地が近接している ○ 緑と市街地がうまく分かれている ○ 田園などと都市部の両方がほどよく存在している ○ 発展しすぎず、田舎すぎず住みやすい（2） ○ 市街地と農村部が共存している
自然・地形に恵まれている		<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境に恵まれている（4） ○ 市街地と農村部が共存している ○ 気候が良い ○ 琵琶湖が近い ○ 琵琶湖に接する長さが多い ○ 琵琶湖岸に位置し景観が良い ○ 緑、田園、湖に接し、広範囲な都市である ○ 旧草津川の桜はよい
公園の魅力・管理が良い		<ul style="list-style-type: none"> ○ 南草津団地の公園の管理では、毎週1回草むしりをしている ○ ロクハ公園にはカブトムシの家がある ○ ロクハ公園では、土の上を歩いたり緑をみたりしてほっとする。 ○ ロクハ公園は、遊具に頼らず、自然を活かした公園で心がやすらぐ ○ ロクハ公園は市民に愛されている ○ ロクハ公園は、意外と利用者が多い ○ ロクハ公園は、親子で遊べるのがよい ○ ロクハ公園プールの人気が高い ○ 博物館、水生植物公園以外にレジャーを楽しむ人が意外と多い
犯罪や安全性の確保への取り組みがある		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの安心安全活動で、学生ボランティアと町内会が連携している ○ 電球の取り替えを町内会で取り組むところもある ○ 防犯活動で警察と協力して活動しているところがある ○ 防犯の学生ボランティアが南草津駅周辺のゴミ拾いをしている

第2部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
子どものための取り組みがある		○ 登下校の見守りの取り組みが進んでいる（3）
地域協働合校の成果がある		○ 地域協働合校が11年目に入り、特色が出ている
歴史的・文化的な魅力がある	歴史文化が豊かだ	○ 歴史文化の街 ○ 古い建物が結構ある。
	草津宿本陣が魅力的だ	○ 東海道と中山道の交差する宿場町 ○ 草津宿本陣が魅力的

第3部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
人口増加による活気		<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口増加（2） ○ 人口増加したため（県内他市より）活気がある（5） ○ 人口が多すぎる ○ 人が多すぎない ○ 人口が程よい状況にある ○ 若さや先行きの可能性をもった町である
JR南草津駅前の開発が進んでいる	地価が安い	○ 大阪や京都と比べると地価が安く、住宅を購入しやすい
	JR南草津駅周辺の活気と開発（大学の影響）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南草津駅周辺が開発されてきた ○ 店舗が駅前に集中して、目的が明確に達成できる便利なまちだと思う ○ 南草津駅前は活気がある。 ○ 南草津は若い町であり活気がある ○ 南部地区に活力を感じる ○ 大学があることで、開発が進んでいる（2） ○ 若者が多く街に活気がある ○ 立命館大学があり若者が多いので活気がある ○ 学生が多い（BKC人口は17,500人、市内129のマンションに8,000人の学生が住んでいる。しかし住民票を草津にもっているのはそのうち3割）（バス・自転車の輻輳も）

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
生活に必要なハードが充実している	交通の便が良い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津は交通の要所だ（2） ○ 大阪、京都への通勤圏（3）（そのため人口増） ○ 京阪神への（アクセスに）立地がよい ○ 京都大阪に出かけやすい ○ 通勤しやすい ○ 交通の便が良い（5） ○ 交通がある程度便利だ ○ インフラ整備が進んでいる ○ JR、道路などのアクセスが良い、JR、高速道などの幹線がわりと便利 ○ 道路が整備されている ○ 車で移動しやすい ○ 滋賀県の中での位置が中心に近い ○ 京阪神への利便性がよい（新快速の登場で際立った。バブル期には終の住処として草津を選ぶ人も）
	買い物の便がいい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物の便がいい ○ 暮らしに必要な日常的な買い物ができるいい街になっている。 ○ スーパー、店が多く、近いところで買える（物価も安い）（3）
	大型商業施設の進出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大型商業施設の進出により生活が便利 ○ 大規模店舗の充実
	生活に便利で住みやすい	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちとして適当なサイズを有している ○ 生活する環境（衣・食・住）が整っている ○ 生活に便利で住みやすい（3） ○ 清潔、ゴミが少ない
	生活インフラが整っている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上下水道設備が整っていて良い ○ 溝ぶたの段差が解消できている

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
産業が盛ん	第一次産業が盛ん	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業が盛ん ○ 山田の草津メロンは、守山より安くて、おいしいとも言われている。 ○ ホンモロコやアオバナに着目して振興策をやっている。いずれも減反対策としてやってきた。
	産業上の立地がよい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津のいいところをあげて、それを生かすことが大切。例えば、交通の要衝であることなど ○ 大手メーカー工場が多い ○ 新名神は、草津にとってプラスになった ○ 湖南エリアは、まだ成長する可能性のある地域 ○ 交通の要衝であることが利点。この強みがどんな産業で生かせるか ○ 例えば、10 t 運んで、100万ではなく、億稼げるような、付加価値の高さが必要。先端産業などか。 ○ 交通の要衝を生かせるとよいが、一方で、環境面からは、トラック輸送は見直しの方向でもある。 ○ 企業進出には、労働力確保も指標になっている。その意味で、湖北や湖西より、湖南は有利。

第4部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
市民活動が盛ん		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民活動をやっているとおもしろい人との出会いがある ○ 市民活動が盛ん（2） ○ 地域活動が低迷している中で、テーマ型のボランティアが主流になってきた ○ 小学校・中学校に地域協働合校がある（大阪などにはない） ○ 70歳以上が引っ張ってきた南草津団地の活動 ○ 南草津団地は町内会全体が高齢化する中で、周辺町内会との交流（子育てサロン）の場がある
公共施設・民間施設での取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ○ 老上公民館では「地域協働合校」の取り組みが、幼稚園・小学校・中学校・公民館が近くにあるので連携しやすい ○ 老上公民館は「あいさつ通り」「わんぱくプラザ」など活発 ○ 老上公民館の学区内は様々な自治会があるので、同質に議論するのは難しい ○ 大学のグラウンドで少年野球チームの活動（大学施設の活用）
市民センター機能が充実している		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民センター機能が充実している ○ 市民センターの役割が大きい ○ 老上公民館は、現在は市民センターとして届出發行
まちづくりセンターの運営協議会方式がよい		<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会で市民と行政・財団が対等に話し合う ○ まちづくりセンター 利用者・所有者・管理者との協働による運営協議会
行政・議会の位置づけ	市議会の位置づけを明確にしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会は議会としての機能を果たしているのか？ ○ 市の職員の数は減っているが、なぜ市議会議員の数は減らせないのか？
行財政状況の安定		<ul style="list-style-type: none"> ○ 夕張のように破綻していない

【課題】……主に基本計画での対応を検討しますが、このうち「時代の潮流」「主要な課題」における対応について整理しています。

※ 基本構想等草案への対応を以下で示しているものについても、今後、基本計画での対応を検討していくものです（特記していません）

第1部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
人権意識の啓発が必要だ			・ 基本計画のなかで踏まえていく。
文化の違いと理解の難しさがある		<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国からの転入者にゴミの分別の説明ができない ○ アジアから来た人はとけこんでいて気づきにくい ○ 転入者だと気づかないことで理解できないこともあるかも知れない ○ 夜に騒ぐなど、国によって文化の違いがある 	・ 「時代の潮流⑥」などに含めて記載している。
豊かな自然環境が減りつつある	自然が減っている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 割と自然が残っているが、ドンドン減っている ○ 緑が少ない（2） ○ 田園地域は10年後に住みやすいかを検討する必要がある 	・ 「時代の潮流④」「主要な課題④」などに含めて記載している。
	自然と調和した開発が必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市化と自然環境が程よく調和しているので、これ以上開発しないでほしい 	
環境問題に取り組む必要がある	ゴミ問題に対する意識が低い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在は処分できない分は大阪湾に埋め立てしているが、市民は知らない ○ 分別するとプラスチックのゴミが多いが、再生は難しい ○ ゴミの投棄が多くなっており、モラルが低下している ○ 自然も放置されているとゴミのたまり場になるので管理が必要だ ○ 粗大ゴミが多くなってきた。テレビや自転車など。デポジット制は検討できないのか ○ 草津川の草を堆肥にしてリサイクルしたいが、廃棄物として処分しなければいけないのかわかりづらい 	・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	河川浄化に対する意識が低い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 河川から琵琶湖への水のサイクルを考える人が少ない ○ 農繁期になると河川に油が浮く 	・ 基本計画のなかで踏まえていく。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
環境問題に取り 組む必要がある （続き）	ゴミやリサイクルの 取り組みは、行政は 充実しているが市民は 知らない	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴミ拾いのボランティアで、行政からは大型ゴミなどは拾わないでほしいと伝えられたが、実際には行政は場所を教えてほしいと考えており、相互に正確な情報が伝わらない ○ 河川の泥はセメントなどにしてリサイクルしているが市民は知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	生活スタイルや 考え方が違う	<ul style="list-style-type: none"> ○ リサイクルのシステムが充実すれば税金も有用に使えるのに ○ リサイクルに対する考え方も市民によって違う ○ 生活スタイルに対する考え方が新住民、旧住民で異なる ○ 新住民には、煙や蛙の鳴き声も公害になりうる ○ 新住民は前に住んでいたところ（都会）と同じ行政サービスを期待するが対応できない ○ 行政としては、旧来の生活スタイルについて指導するのは難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
魅力のある公園 の整備が必要だ	公園の整備が不 足している	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心地に公園、芝生の広場がない、少ない（2） ○ 人が集うような、コミュニティの中心となるような場所に公園がない ○ 公園の管理が悪い ○ 公園が放置されている ○ 公園の遊具が多すぎる ○ ロクハ公園はイベントが少ない ○ ロクハ公園は公園へのアクセスがすくない ○ ロクハ公園はアクセスが不便である ○ ロクハ公園は子どもだけでは遊べない ○ ロクハ公園は交通の便が悪く利用者が少ない ○ 安全な子供の遊び場が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題④」などに含めて記載している。
	住民主体の公園 の管理が必要だ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
災害が少ないが対策が必要だ		<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害は少ないが対策は必要だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「時代の潮流⑦」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
草津川跡地の有効活用を検討する必要がある	草津川跡地の活用が十分でない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津川跡地が充分活用できていない ○ 旧草津川の取り扱いが不明だが、災害時に使える施設にならないか ○ 人通りが少ない ○ 荒れた印象がある ○ 空き地を利用できていない ○ 街灯が少ない ○ 利用が決まっていなくて管理が大変だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	草津川跡地を多目的に活用したい		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
犯罪や安全性が不安だ		<ul style="list-style-type: none"> ○ 物騒なことが多い ○ 犯罪が多い ○ 重大犯罪が少ない ○ 軽微な犯罪は多い ○ 自転車の盗難などの犯罪が増えつつある ○ 治安が不安 ○ 子供だけで安心して遊べる場所がない ○ 大型商業施設に子どもが遊びにいった場合、周囲の大人の目が行き届かないためのトラブルが心配 ○ 大学生の路上駐車への対応で住民の理解が難しいところもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑦」などに含めて記載している。

第2部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
子どもが育つ環境づくりが必要だ	子どもが育つ環境が整っていない	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちに子どもがいない。 ○ 昔の駄菓子屋のような、子供の友達づくりができる場が少ない ○ 児童館、児童センターがない（無料で自由に遊びに行ける場所） (2) ○ 私立幼稚園が草津駅周辺に集まっているため、その他の地域の人 が通にくい ○ 幼稚園の入園に制限がある ○ 公立の幼稚園は3年保育をしていないため、私立に人気が集まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題③」などに含めて記載している。
	母親を支援する場が必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て中の人が集まる場所が少ない（3） ○ 特に0歳児のお母さんは孤独に陥りやすく、支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題③⑦」などに含めて記載している。
生涯学習の制度や運用を充実する必要がある	生涯学習の内容や運営に課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育関連団体が多様化しているが、世代交代ができておらず、 同じ人が担うケースが多い ○ 社会福祉団体も多様化し横のつながりがない ○ 生涯学習関連の情報が分散し、検索しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題②」などに含めて記載している。
文化的な魅力が不足している	都市景観の目指す方向が見えにくい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町の景観が、あまり良くない ○ 都市景観の目指す方向が見えにくい ○ 四季を感じるものがない。 ○ 花がない。 ○ 烏丸半島の空き地利用は？（3） ○ 風車はシンボルになっているか？ ○ 烏丸半島の施設計画は集客が難しいのでは？ ○ 烏丸半島の施設計画は使用用途・目的を明確にしないと不安、も ったいない ○ 烏丸半島の施設計画は中途半端にならない利用計画をたててほし い ○ 三ツ池はサッカー場の芝が天然の場合、年に50回程度しか使えな い ○ 三ツ池は施設の内容が盛り込みすぎではないか ○ 三ツ池は企業売却部分の内容が共存できるものか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題④」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
文化的な魅力が不足している（続き）	文化芸術の発信・交流拠点が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 映画館がない ○ 大きな市民ホールがない ○ 文化芸術の発信・交流拠点が少ない ○ 市の文化施設がない（ホール） ○ 「歴史・文化行政が近隣市町より弱い」と言われる ○ 文化施設が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題①」などに含めて記載している。
	オリジナルな魅力が不足している	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歩いて魅力のある街にする必要がある ○ 商店街、文化ゾーンも含めて、何の興味もない街になっている。 ○ 人を呼び込む魅力がない ○ 買い物に京都、大阪に行ってしまう ○ 郷土料理がない？ ○ 全国的に有名なお土産がない ○ 町のターゲットがどんな人なのか見えない ○ 草津といえば・・・というシンボル、核、ブランドがない（5） ○ 地味なイメージ（大阪から見ると大津以北はよくわからない） ○ 誇れるものがない ○ 群馬の草津と間違われる（2） ○ 花火大会がない ○ おいしいそば屋がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	観光資源が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光資源が少ない、活かしていない（2） ○ 歴史文化の観光に力が入っているとは思えない。 ○ 修学旅行生が琵琶湖博物館などに来たとしても、宿泊施設がない ○ 観光客にとって草津は狭間の時間（メインは京都など） ○ 草津宿本陣の近隣に観光客が立ち寄るようなところ（観光名所、土産物屋など）がない ○ 烏丸半島、草津宿本陣など観光地が点在している。どうしても車での移動観光になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
文化的な魅力が不足している（続き）	観光資源が少ない（続き）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光客の動線が悪い。もう少し歩いてみたいと思えない。 ○ 良い所が点々とあるのに本陣くらいまでで止まってしまう。 ○ 本陣周辺は地区計画ができていなかった街。特にでこぼこの軒先。 ○ 草津宿街道交流館の利用者が日曜日なのに少ない。むしろ皆無。 ○ 本陣周辺に歩くと一息つける場所がほしい。ベンチなど。 ○ 本陣周辺は店舗の跡地が小さな駐車場となっている。月極めが多く観光客は使えない。 ○ 本陣周辺には公共スペースがない。 ○ 本陣の標識が「東海道」ではわかりにくい。 ○ 旧東海道の目印がわかりにくい。 	
健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している	大規模スポーツ施設が不足している	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模なスポーツ施設（1万席以上）がない（Jリーグを目指す草津のチームがあるが、大会は他市での開催が多い。草津市に施設が誘致できれば、経済効果は大きい） ○ ゴルフ場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	高齢者の活躍の場が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの施設でも年配の人の姿を見かけない。出かけられる場所が必要 ○ 高齢者のパワーを発揮する場所がない ○ 退職した人（特に男性）が活動し始めづらい ○ 今の高齢者は受身な感じ。プログラムを用意してもらえるところに出かけることが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題③」などに含めて記載している。
	医療体制の充実が必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームドクターの休日診療制度を充実してほしい（小児科に集中している） ○ 休日診療救急センターは専門の医師が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題③」などに含めて記載している。
	公共の病院がない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公立の医療機関がない（他市にはあるのに、市民にとってどうか） ⇔（逆に、民間で成り立つのならばない方がよいのでは？） ○ 公共の病院がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題③」などに含めて記載している。

第3部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
<p>駅前の開発が急にすすんできている</p>	<p>中心部にマンションが多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 駅前にマンションがはりつき過ぎ ○ 中心部は商業地なのにマンションが多すぎる ○ 住宅供給過剰（学生マンション・企業マンション、バブルの様相を呈している）（2） ○ 駅前がマンションだけというのは、将来問題になる。 ○ マンション乱立地域に緑が少ない。緑が少ないマンションは、将来的に価値が下がる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題④」などに含めて記載している。
	<p>開発が中途半端</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開発には、先をみた土地利用のコントロールが必要 ○ （開発が）何事も中途半端 ○ 旧草津川が都市を分断している ○ 東西が旧草津川、南北がJRで分断されている ○ 南と北の状況が異なることに注目することも必要だが、最終的にはそれらをつないでいくことを考えることになるだろう ○ 急激な人口の増加による旧野路町の分断（2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題④」などに含めて記載している。
<p>交通環境が整備不足である</p>	<p>公共交通整備の不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車等がないと生活が不便だ ○ 車以外での交通手段がない ○ 市街地以外では車なしでは生活できない ○ 交通（公共の）が不便だ ○ 南草津駅に新快速が止まらない ○ 路線バスの運賃が高い ○ バスが少ない（立命館大学よりも先へ行くとバスがとても少ない） ○ 商店街を循環するような無料バスがない ○ バスが高い、少ない（観光スポットをめぐる場合に、たとえば草津宿から琵琶湖博物館へバスで行こうとしたら、アクセスが悪く本数も少なく料金が高い） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑤」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
交通環境が整備不足である（続き）	道路整備の不足	<ul style="list-style-type: none"> ○ 渋滞が多い ○ 主要幹線・道路が集中している ○ 道路が混んでいる（国道1号） ○ 中心市街地への道路アクセスが悪い。また、駐車場が少ない。 ○ 道路の渋滞・年々悪化している（特に南北の道路が詰まる） ○ 道路インフラが追いついていない（抜本的解決には車そのものを減らす必要がある） ○ 道路が狭い（4） ○ 道路が複雑 ○ 道路が混む ○ 国道1号のアクセスが混む。 ○ 草津川により交通の便が悪くなっている ○ 三つ池周辺の道路は混雑している ○ 生活道路の整備が十分でない ○ 歩道が狭い（そのため自転車と歩行者が一緒）（2） ○ 歩道、車道の段差が危ない ○ 歩道の真ん中の電柱は再検討する必要がある（トンネルの出口など） ○ 交差点の信号間隔が短いので、渋滞する。人も渡りにくい。 ○ サインが分かりにくい。 ○ 自転車置き場がバラバラで使いづらい ○ 通過交通しかない ○ 住宅街の通り抜けが多い ○ 草津駅前（道がごちゃごちゃしている・かつては開かずの踏み切り） ○ 駐車場がない ○ 駐車場が狭い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	交通マナーが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通マナーが悪い ○ 道路にゴミをよく捨てられる ○ 駅周辺等路上駐車が多い ○ 烏丸の民活予定地付近の路上駐車が多い(2) ○ 駅前ロータリー駐車の車が多い ○ 学生の交通マナーが悪い（学生だけでひとつのまちの規模を持っているのだから、いい人も悪い人もいて当然といえば当然である） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
生活に必要な施設が不足している	ゴミ処理場が不十分	○ ゴミ処理場が不十分	・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	集会所施設が未整備である	○ 南草津団地集会所の入り口にスロープがないため高齢者が利用しにくい	・ 基本計画のなかで踏まえていく。
産業の振興を図る必要がある	第一次産業の振興が必要だ	○ 草津のよい環境を生かしきれていない ○ 農業自身が利益を出す構造が必要だ ○ 米は農家の規模がまちまちなので、どこが取組むのかが難しい	・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	計画的な土地利用による産業育成が必要だ	○ 草津は製造業用の新たな土地は少ない ○ 現在の企業は弱電が多い。不況だと同じように業績が下がる危険がある。業種が偏っていることは弱み	・ 「主要な課題④⑥」などに含めて記載している。
職場と住まいが両立するまちづくりが必要だ			・ 「主要な課題④」などに含めて記載している。
衰退した商店街を活性化したい	商店街が衰退している	○ 商店街が細分化され過ぎ ○ 旧市内に活力がない ○ 商店街が寂しい (3) ○ 商店街の後継者がいない ○ 商店街はシャッター通り。ポテンシャルはある。行政の力だけでは何ともならない。地域通貨も肝心の商店が盛り上がらなかった ○ シャッターが閉まっていて寂しい(2) ○ シャッター通りになりつつある。 ○ 日曜でも店をあけてほしい ○ 閉まっている店が多く寂しい ○ 平日より日曜が休みの店が多い ○ 人や自転車の通過道路になっている。 ○ 6丁目から4丁目のお店のお客が4軒で4名であった。 ○ 興味をそそられるようなお店が連続していない ○ 商店街が日曜日なのに人が歩いていない。 ○ 商店の努力も足りない。 ○ 住宅や病院が店舗の間に入り乱れているために、歩いて楽しめない。 ○ 昼間しまっている居酒屋が増えているため昼間がさみしい。 ○ まちなみがそろっている所とそうでない所がありバランスが悪い。 ○ 間口の狭い店が多い。 ○ 駅前商店街では、魚屋も10件ほどあったのが1件になってしまった。	・ 「主要な課題⑤」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
衰退した商店街を活性化したい（続き）	郊外大型店との競争が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平和堂は、1号店ゆえ、残っているらしい。現在は駐車場が義務付けられているので、建て替えは難しいが。 ○ 大型商業施設による商店街の衰退（2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑤」などに含めて記載している。
	商店街活性化の戦略をたてる必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今の商店街は、普段の買い物の機能を維持するのにも、何か手をうたないといけない状況だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑤」などに含めて記載している。

第4部会

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
市民活動が重要だ	地域コミュニティが弱まってきた	<ul style="list-style-type: none"> ○ 転入者が多いことが、人口増加、コミュニティづくりの課題となっている ○ 旧住民には古い価値観にとらわれている人もいる ○ 地域は青年団・婦人会があった頃と違う（課題解決の目的が必要）。 ○ 新旧住民が交流しない、交流が少ない、ギクシャクしている（4） ○ 新旧住民の世代間の問題への対処が必要である。 ○ 新住民どうしの交流が少ない（2） ○ 人の入れ替わりが激しい（協働の難しさ） ○ 市民がまとまりにくい ○ 住宅団地では同世代の方々が集うので、世代を超えた広がりを持つことが難しい ○ 団地でも、共生できる環境づくりが必要だ（例）多世代混住の推進 ○ 団地では人が減りつつある ○ 住宅団地単位では課題が共有できるが多用なニーズには応えられない。他地域との連携が必要 ○ 学生や一人暮らしの人で自治会に入らない人がいる ○ 運動会など行事に出てきてくれない ○ 向こう三軒両隣（近隣コミュニティ）がなかなか進まない ○ 住民の入れ代わりが多く、つながりを求めている人も多い。 ○ サポートコミュニティ等、必要なものであれば自然に組織や団体が出来上がっていくのではないか。そもそも町村コミュニティってそういうものだと思う。すたれていっているor活発でないということは、「必要とされていない」ということではないのか？必要とされていないのであれば、より必要とされるものに形を変える、または廃止する等していく方がシンプルでよい ○ コミュニティが崩壊しているのは必要とされていないのか、地域内教育もなくなるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑦⑧」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
市民活動が重要だ（続き）	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他市に比べ福祉やボランティア活動が遅れている ○ 無関心層の対応が必要だ ○ 勤労世代の参加方法を検討する必要がある ○ 「私やらんでも誰かがやってくれるんやろ」と言いつつ、その結果に文句を言う人が多い。 ○ でも、その人たちを教育していくのは大変。人は自分自身が本当に必要だと思わないと動かない。イヤイヤだとまた文句が出る ○ ボランティア活動の大切さへの気づきのための取り組みが必要だ ○ 社会参加に対する意識づけ（子どもの頃からの） ○ 地域教育は誰がするのか（学校ではない） ○ 本グループ・草津市民の中でも協働のイメージは違う。 ○ 草津市には多様な価値観の人がいるので、多様な協働の形がありうる。 ○ 草津市の協働は「パッチワーク」のような多様なイメージ○である。 ○ 草津で多様な人が集まるためには、ゆるやかな事業の形態が必要である。 ○ 市民活動は、市民活動の「需要」に見合う「供給」のバランスがかみ合うことで、全体に広がる。 	
市民活動の場づくりが重要だ	公共施設が使いづらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市の施設の設備が使いにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	市民センターの魅力づくりが課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民センターの魅力づくりが課題 ○ 市民センターが地域に溶け込んでいない ○ 市民センターのスタッフが排他的である ○ 市民センターは市民団体間の調整をしてほしい ○ 市民センター化により利便性は向上、使い勝手は要進化、運営（会館）スタイルは要改善 ○ 市民のための施設であるならばもっと開かれた運営を考える必要がある ○ イメージが暗い ○ 地域の拠点活動なので参加しない人をいかに参加してもらえるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
市民活動の場づくりが重要だ（続き）	市民センターの魅力づくりが課題（続き）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 館長によって運営が違う ○ 市民センターが生涯学習プログラムの提供や情報発信の機能をなかなか担いきれていないので、もっと特色がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	市民センター、公民館の役割を見直す必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民センター（公民館）の日曜開設は必要か？（1日1件ということもある） ○ 市民センター（公民館）の数は13も必要か？中学校区ごと程度でもよいのではないか。 ○ 市民が求める行政サービスと提供される市民サービスは合致しているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
	まちづくりセンター、ボランティアセンターの運営に課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりセンターには利用の仕方が異なる各団体の調整の難しさがある ○ まちづくりセンターが特定の団体しか利用されていないのでは（利用しづらい） ○ 市ボランティアセンターは形だけのような気がする。一般市民が利用しにくい。（特定の人だけが利用しており、市民には遠い存在） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。
多様な人々が市民活動に参画すべきだ	地域での取り組みが必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小地域での協働は見えるが、ここまで大きくなると見えにくい ○ 地域ごとの協働のあり方が必要だ ○ 草津の中にも自然環境豊かな地域、田畑が広がる地域、市内の市街地など多様な地域がある。それらが互いに連携することが、魅力づくりにもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑦⑧」などに含めて記載している。
	学生や大学が参画すべきだ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑧」などに含めて記載している。
	企業も参画できる協働のしくみづくりが必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 松下も立命も、地域清掃にはなるべく地域と一緒にしている。行政や地域が企業・大学と計画・日付等を早い段階から合わせていけると協力しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑧」などに含めて記載している。
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学生と違い、企業人はその地域に居つくが、世代が続かない（ニュータウン化）という課題が共通している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑧」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
多様な人々が市民活動に参画すべきだ（続き）	学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生が地域に残らない（Iターンはない） ○ 立命館大学学生のうち、8000人は草津に住んでいるが、卒業したら離れていくという現状がある。 ○ 地域内雇用が少ない（空洞化） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑧」などに含めて記載している。
行政・議会の位置づけを明確にするべきだ	行政サービスを再検討するべきだ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 求められる市民サービスの多様化に行政はどこまで対応できるのか？ ○ 公と私の区別をどこに置くのか？（市民サービスの範囲） ○ 市全体のトータルビジョンの視点で議論できる政策立案機能（あるべき姿）が必要だ ○ 多文化共生施策がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑨」などに含めて記載している。
	行政の顔が見えにくい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市役所の部署の名称が変わりすぎ（覚えた頃が変わる） ○ 行政の顔が見えにくい ○ 草津の中心でイベントが多い（琵琶湖側や、山側での開催が少ない） ○ 市の中心市街地の改善・改革の手の打ち方が小さい。 ○ 行政の縦割りの弊害がある、融通が利かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑨」などに含めて記載している。
市民と行政の協働を進める必要がある	市民と行政との対話の場を作る必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 住民の活動を行政が支援してほしい ○ 行政は、他地域の市民活動支援の情報を集めて中間支援施設のあり方を検討する必要がある。 ○ 行政は、地域でどんな活動をしているか、情報の仲介、ヒントや情報の提供。協働を支える役割を担えるように。 ○ 行政は、講座実施の際はPRをしっかりと行うべきである。 ○ 行政は、ボランティアセンター事業実施に際しては、市民と協力して一般の人にも目につく工夫をすべきである（裾野の広がりを意識して） ○ 異動のある行政職員とのパートナーシップの難しさ ○ ひざをつきあわせるような行政との対話が少ない（各トーク（市長 e t c）はシナリオができています） ○ 行政や市民活動の担い手にもカリスマ（プロジェクト的な）が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主要な課題⑧⑨」などに含めて記載している。

大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）	基本構想等草案との対応
市民と行政の協働を進める必要がある（続き）	市民と行政との対話の場を作る必要がある（続き）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協働のカリスマが抜けたときのことを考え、行政・市民活動団体は協働ノウハウの平準化を図るべきである（限界はあるが）。 ○ 市民のニーズをいかに効率的に市へ届けるか（本当に求めているもの） ○ 他の行政団体との連帯が良好とは言えない（市役所社協コミセン市民企業） 	
	広報体制の拡充が必要だ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報くさつを使った行政告知（市民は意外に読んでいる） ○ 市政情報の入手方法 広報くさつの活用率がとくに高いが十分に生かされているとはいえない ○ ポータルサイト「932情報ネット」が機能していない。 ○ 市民活動を供給したい団体は多いが、市民団体側もニーズのある人を「助けに行くよ」という表明が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画のなかで踏まえていく。

【取り組み】 ……基本計画において対応を検討していきます。

※ 具体事業に係る内容は、すべて、今後の基本計画において対応を検討していきます。

【将来像】 …… 「将来に描くまちの姿」 での対応について整理しています。

目指す将来像	選択されたカード	WS での意見	基本構想等草案との対応
さまざまな環境（自然、働く場、暮らし、マイノリティ）の共生	豊かな自然環境が減りつつある	○ 地球温暖化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 「……恵まれた環境が守り生かされ……」という表現のなかで、様々な環境との共生の趣旨を含めている。 ● 「……誰もが、互いを尊重し認めあい、……」という表現のなかで、人権尊重と多文化共生の趣旨を含めている。
	環境問題に取り組む必要がある		
	産業の振興をはかる必要がある		
	駅前の開発が急に進んできている		
	衰退した商店街を活性化したい	○ 地域通貨などを検討できないか	
	魅力のある公園の整備が必要だ		
	生活に必要なハードが不足している		
市民と行政による共生の仕組みづくり	市民と行政との協働を進める必要がある	○ 行政は財政面から市民はニーズから協働を考えるので食い違いがある	<ul style="list-style-type: none"> ● 「……市民・企業・行政等の「協働」を基軸とした市民自治の仕組みが……」という表現のなかで、市民と行政の共生の仕組みづくりの趣旨を含めている。
	市民活動は重要だ	○ 行政は市民活動に関する情報を提供してほしい	
	多様な人々が市民活動に参画するべきだ	○ ボランティアに頼りすぎた活動には限界があり、行政の支援が必要だ	
変化に対応できる市民目線のハード整備	生活に必要なハードが不足している	○ 目的、方向性、将来像から施設整備運営を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続的に発展させていくため、「選択と集中」「連携」……地域経営が安定的に行われています……という表現のなかで、趣旨を含めている。
	生活に必要なハードが充実している	○ ランニングコストを大事に！10年先を考えて！！	
	生涯学習の制度や運用を充実する必要がある	○ ハコモノ凍結	
	地域施設の有効活用が必要だ		
	健康福祉教育文化スポーツ施設が不足している		
	魅力のある公園の整備が必要だ		

目指す将来像	選択されたカード	WSでの意見	基本構想等草案との対応
時代の風の循環に対応できるまち	産業の振興を図る必要がある	<input type="radio"/> 草津の特性を活かす(例:学生ベンチャー)	● 「“その輝きは～創りだしています。”という表現のなかで、趣旨を含めている。
	交通環境が整備不足である	<input type="radio"/> 新陳代謝をせざるを得ない「風のまち」	
	駅前が開発が急に進んでいる	<input type="radio"/> ターニングポイントをつかめ	
	人口増加による活気	<input type="radio"/> 「根無し草」だからこそ生き残れる	
	まちの分断	<input type="radio"/> 今後は農の時代が来るかも	
	衰退した商店街を活性化したい	<input type="radio"/> 草津は風のまち新陳代謝のまち。時代の変化に対応できるまち。	
		<input type="radio"/> 時代の風を呼ぶまち。(課題の裾野も広がるけれど)	
		<input type="radio"/> ハードからソフトへ(10年先の草津はどんなまち?)	
協働による生活視点オーダーメイドのまちづくり	文化の違いと理解の難しさがある	<input type="radio"/> 「生活の質」重視のまちづくり(関西圏における草津の役割)	● 「将来に描くまちの姿」全体に、市民生活の質や協働を重視した趣旨を含んでいる。
	多様な人々が市民活動に参加すべきだ	<input type="radio"/> 市民の「生活」と向き合う(観光でも産業でもない)	
	市民活動は重要だ	<input type="radio"/> 市民活動に対する意識の二面性融合の必要性	
	市民と行政の協働を進める必要がある	<input type="radio"/> 流動性の高い草津来る人を受け入れられるまちか?何を残すのか?が問われる	
自家用車に頼らないライフスタイル	まちの分断	<input type="radio"/> 高齢者の移動手段	● 基本計画のなかで踏まえていく。
	交通環境が整備不足である	<input type="radio"/> 新交通システム	
		<input type="radio"/> 補助幹線の整備	
		<input type="radio"/> 東西方向の道路整備	

目指す将来像	選択されたカード	WSでの意見	基本構想等草案との対応
草津で働くライフスタイル・通勤するライフスタイル	職場と住まいが両立するまちづくり		● 基本計画のなかで踏まえていく。
	産業の振興を図る必要がある		
	子どもが育つ環境づくりが必要だ	○ 年齢構成をバランスよく	
10年後、高齢者の暮らしやすいまち	衰退した商店街を活性化したい	○ 商店街での車の扱い方を検討しよう	● 基本計画のなかで踏まえていく。
		○ 道路にも適正な幅が必要だ	
		○ 魅力のある商品づくり	
		○ 海外の超大手スーパーを誘致してみる	

第5次草津市総合計画

検討資料

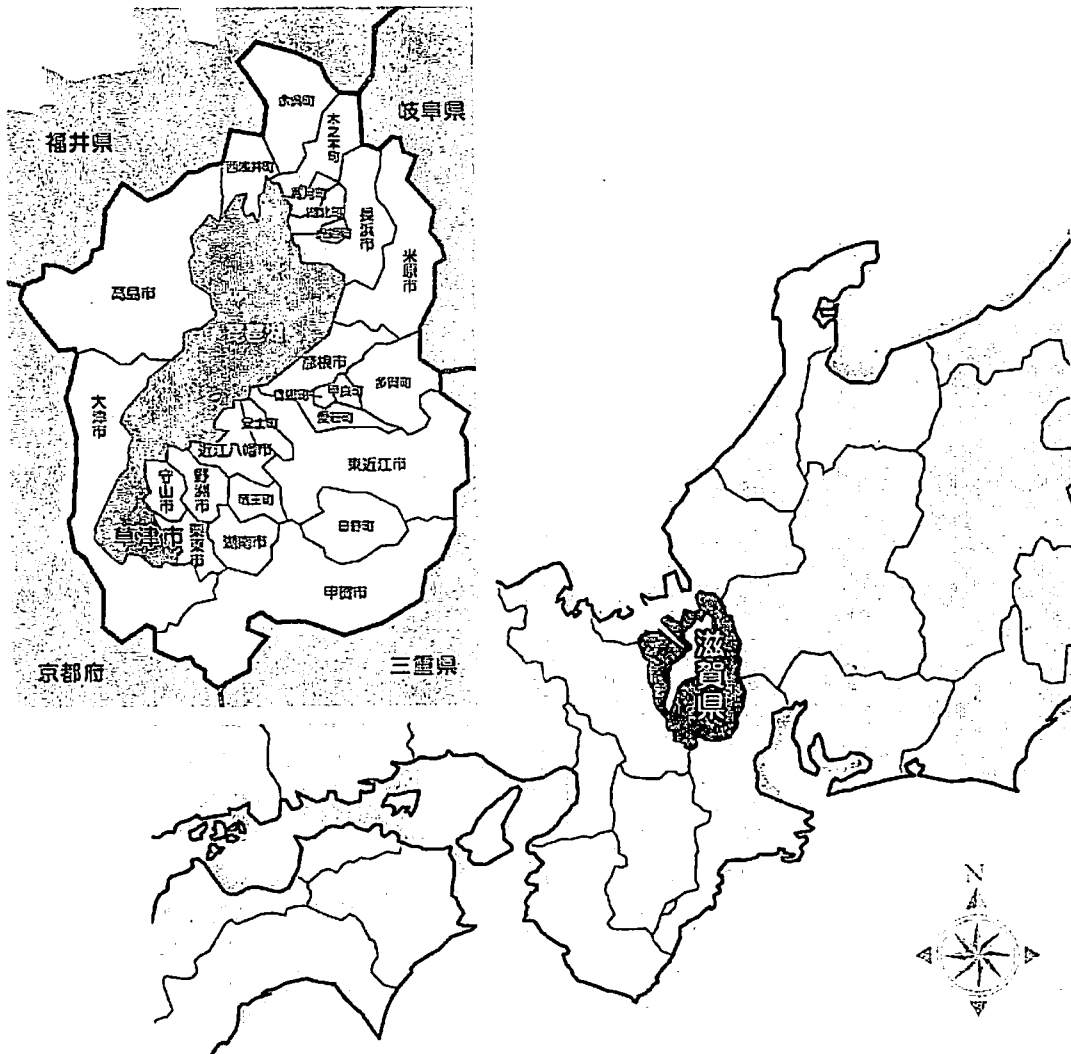
【現況課題、基本構想（草案）】

草津市の現状と課題

1. 位置と地勢

本市は、滋賀県の南東部に位置し、日本最大の淡水湖である琵琶湖に面しており、京阪神大都市圏に含まれて、大阪から約 60km、京都から約 20km、名古屋から約 90km の距離にあります。

市域は、南北約 13.2km、東西約 10.9km とわずかに南北に長く広がり、大津市、栗東市、守山市に接して総面積は 67.92 km²（うち琵琶湖面積 19.7 km²を含む）となっています。湖岸から田園地・市街地へと平地が広がって、東南部の丘陵地へとなだらかに続く地形であり、その先には湖南アルプスの山並みを仰ぎ見ることができます。



2. 地域の特性

(1) 美しく、変化に富む自然

琵琶湖の湖辺一帯に広がるのどかな田園風景は、琵琶湖対岸に臨む比良・比叡の山並みと調和し、四季折々に美しい景観を見せて本市に彩りを添えています。なかでも烏丸半島周辺のハスの群生地は全国有数の広さと美しさを誇り、湖辺のヨシ原は昔ながらの風景を今に残しています。こうした水辺には、冬になるとコハクチョウを始めとする多くの野鳥が群れをなして飛来します。ほかにも、ため池や鎮守の森、また、天井川として全国的に有名であった旧草津川などが、まちのなかの水と緑の空間として残されています。

このように本市には、土地の自然そのもの、そして、自然と人の関わり合いのなかで形作られ守られてきたものからなる、変化に富んだ美しい自然的特性があります。

(2) 行き交い出会う、街道文化

縄文・弥生時代の遺跡をはじめ、南笠古墳群や史跡野路小野山製鉄遺跡^{のじおのやま}などが示すように、草津の地には、太古からの人の営みの歴史があります。

また、古くから街道沿いのまちとして発展してきており、東山道（後の中山道）や東海道が市域を通過して、鎌倉時代には野路宿が、江戸時代には草津宿がにぎわいました。加えて、豊臣秀吉ら歴代の天下人が芦浦観音寺を湖上交通政策の拠点として位置づけたことで、矢橋^{やばせ}や山田^{しな}、志那^{みなと}の湊が活気を見せていたといえます。

このように、古くから陸上、湖上の交通の要地としての歴史を歩んできた本市には、多くの人やものが行き交い出会うなかで育まれた街道文化が息づいており、印岐志呂^{いぎしろう}神社、老杉^{おいすぎ}神社、小槻^{おつき}神社、蓮海^{れんかい}寺など数々の由緒ある社寺、国指定の史跡であり多くの大名や姫君が泊まった草津宿本陣、下笠のサンヤレ踊りに代表される地域に根付いた伝統芸能など、さまざまな歴史文化遺産があります。

(3) 躍動を続ける草津

本市は、湖南地域の中核的な都市として広域的視野に立ったまちづくりを行い、都市機能の集積によって「働く」「学ぶ」「遊ぶ」など市民生活の多様な広がりに応えられるまちとして、都市機能を充実させ、発展してきました。

“若い力”に活気づく

少子・高齢化と人口減少が進む全国的な人口動向と異なり、本市では、大都市圏へのアクセスがよく生活の利便性が高い住宅都市として、また、大学のあるまちとして、ファミリー世帯の転入や学生人口の流入が継続しています。こうした動きが“若い力”となって地域に活気をもたらしており、市民活動や協働の取り組みもますます活発となってきています。

近畿圏・中京圏を結びつける

本市は JR や国道 1 号、名神高速道路などの国土交通幹線が交わる交通の要衝であったことから、滋賀県を代表する工業都市として発展し、今日なお、先端技術を生かした新しい産業の立地が続いています。2008（平成 20）年 2 月に新名神高速道路が整備されるなど、今まで以上に中京圏との関係が深まり、近畿圏、中京圏の両大都市圏を結びつける力が強まっています。

多様な都市機能が集まる

JR 草津駅周辺地区では、大型商業施設や住宅等の開発・整備が進むと同時に、古くからの中心市街地には新しい活力が生まれつつあります。また、JR 南草津駅周辺地区では、土地区画整理事業などに伴う住宅整備が継続し、ファミリー世帯や学生等の居住ニーズを受け止めています。このほか、幹線道路沿道には新たな大規模商業施設が立地しています。

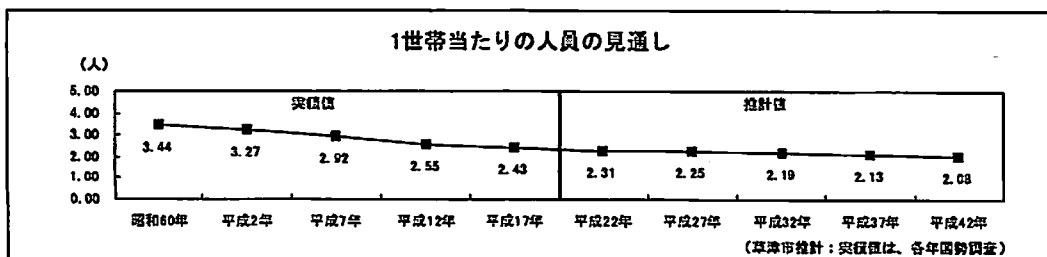
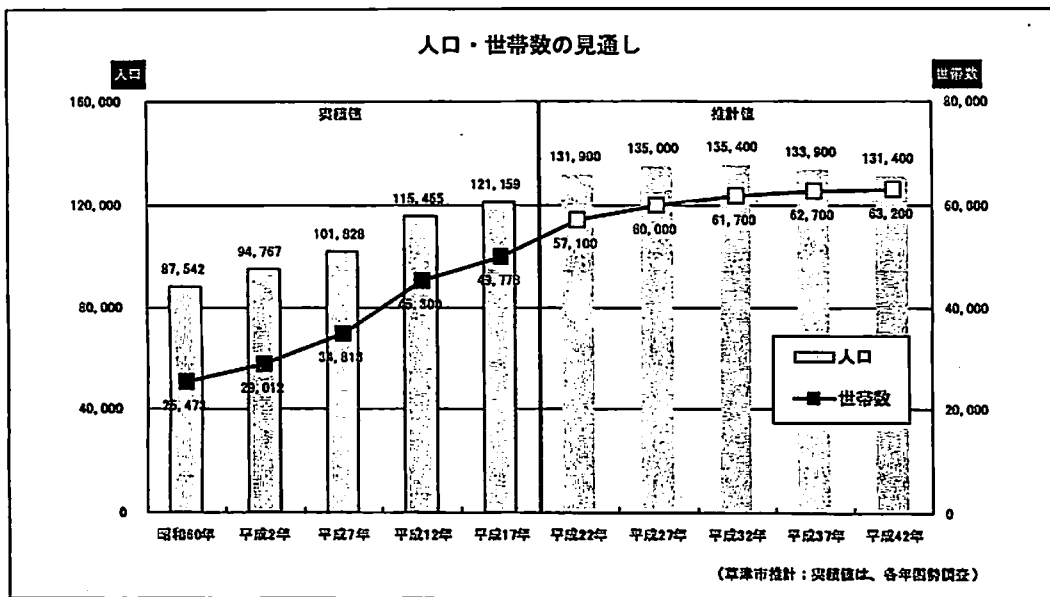
一方、湖岸域には、県立琵琶湖博物館、UNEP 国際環境技術センターなど環境分野の有力な施設、水生植物公園みずの森などが集まり、南部丘陵地には、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）やびわこ文化公園都市区域に文化・教育・福祉等の諸施設が集まっています。

このようななかで、市民の間に様々な出会いや語らいが生まれ、そこからまちの発展につながる活力が導かれて、本市はますます躍動を続けています。

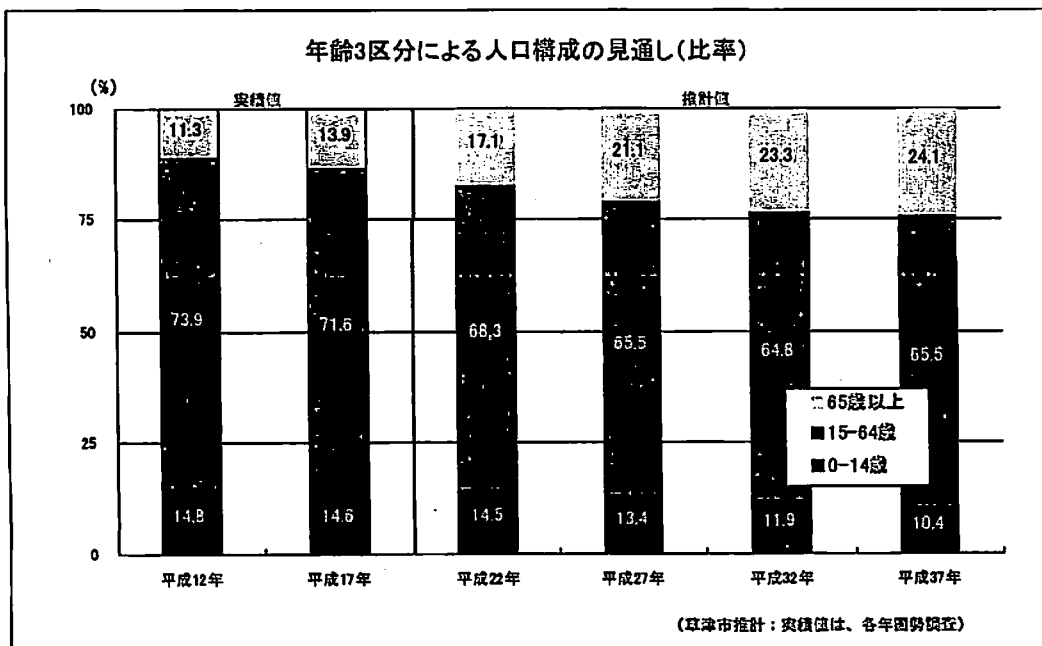
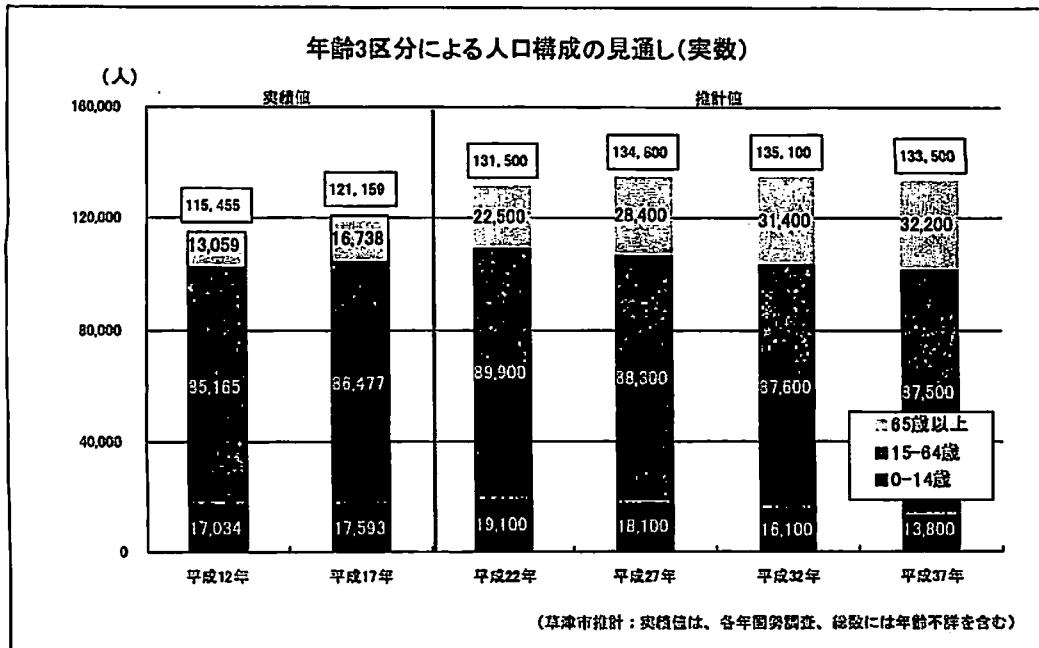
3. 人口の見通し

本市の人口は、昭和 29 年市制施行時には 32,152 人でしたが、昭和 40 年代から昭和 50 年代にかけて著しく増加しました。昭和 60 年代に入って人口の伸びはやや鈍化しましたが、大学の立地や近年の活発な JR 駅前の宅地開発などにより、近年、一段の人口増加となって、平成 17 年では 121,159 人（国勢調査）となっています。人口増加は平成 32 年まで続いて 135,400 人程度に達し、その後は減少に転じることが見込まれます。

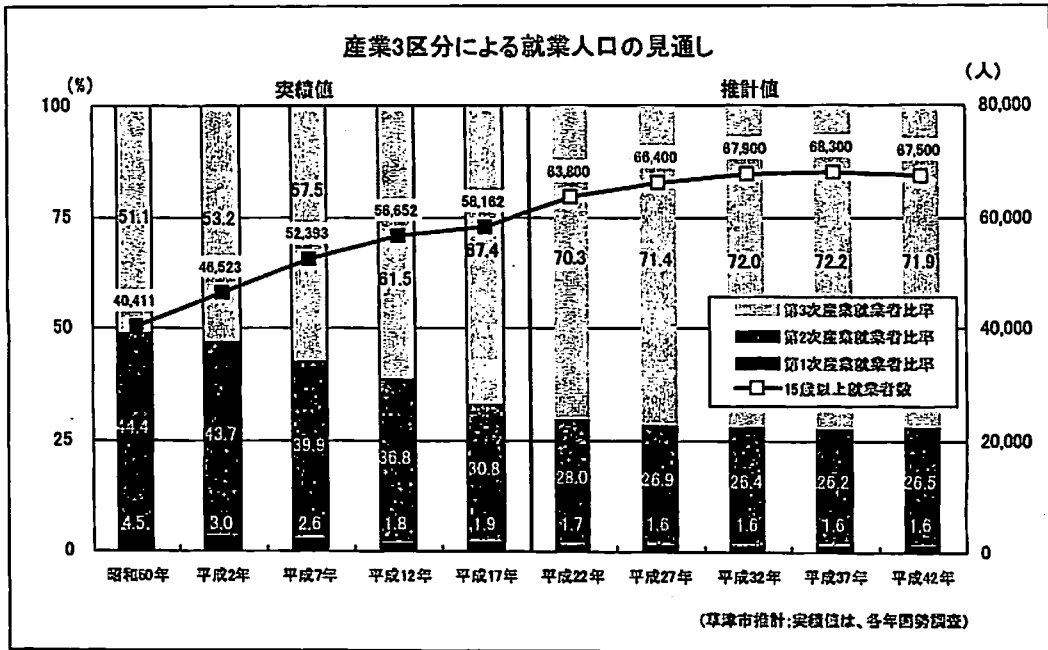
世帯数は、人口増加に伴って増加し、平成 17 年で 49,778 世帯となっています。平成 32 年には 61,700 世帯程度まで増加し、人口がピークを迎えた後も微増を続ける見込みとなっています。人口の伸び以上に世帯数が伸びることで世帯規模の縮小はさらに進み、平成 17 年に 2.43 人であった 1 世帯当たりの人員が、平成 32 年には 2.19 人となることを見込まれます。



年齢3区分による人口構成についてみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は平成22年までは増加し、高齢化の進展によって、それぞれの総人口に占める比率はさらに低下する見込みとなっています。老年人口（65歳以上）の比率は、平成17年で13.9%でしたが、平成32年には23.3%に達することが見込まれます。



就業者数は、人口増加に伴って伸び、平成 32 年度に 67,900 人程度に至って減少に転じる見込みとなっています。産業 3 区分別に見ると、高次産業へのシフトがさらに進んで都市型の就業構造が強化され、平成 32 年の就業者比率は、第 1 次産業が 1.6%、第 2 次産業が 26.4%、第 3 次産業が 72.0%と見込まれます。



■ まちづくりの歩み

第1次総合開発計画では、「調和のとれた10万都市づくり」、第2次総合開発計画では「活力ある調和のとれた市民都市をめざして」として、京阪神大都市圏のベッドタウンとして人口が急増するなかで「調和のとれた」まちづくりを進めて、現在の都市基盤の礎を築いてきました。第3次総合計画では、都市核の形成や広域圏拠点核の位置づけなど、ハード基盤整備を中心として自主性の高い都市構造づくりを行ってきました。第4次総合計画では、こうしたハード面からの都市機能の集積をいっそう充実させるとともに、これらをより活かすため、環境や人権、パートナーシップの仕組みづくりなどソフト面の強化を目指した新しい取り組みを進めてきたところです。

西暦	1954	1970	1981	1990	1991	1998	1999	2010	2011
年	昭和29 30 42 44	45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55	56 57 58 59 00 01 02 83	平成2 3 4 5 6 7 8 9 10	11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22				
人口	32,162人	6万人突破 7万人突破	8万人突破 9万人突破	10万人突破	11万人突破				
総合計画		第1次草津市総合開発計画 「調和のとれた10万都市づくり」 (1)市民のための市政を高めるために (2)さわやかな明るいまちづくりのために (3)教育と文化を高めるために (4)豊かな近代都市づくりのために	第2次草津市総合開発計画 「活力ある調和のとれた市民都市をめざして」 (1)人間性を尊重するまち (2)自然の美しさと生活環境を大切にすまち (3)歴史と伝統を大切にすまち (4)活力を創造するまち	第3次草津市総合計画(ハイプラン21) びわ湖の協働都市 「活力と魅力あふれる生活文化創造のまち」 (1)人にやさしい生涯健康のまち (2)感性に満ちた草津人のまち (3)人が歩き、安心して暮らせるまち (4)豊かな活力を興隆できるまち (5)快適な都市環境を創造するまち	第4次草津市総合計画(くさつ2010ビジョン) 「パートナーシップで築く人と環境にやさしい 緑海に輝く 出会いの都市」 (1)未来を育む人間都市づくり (2)安全で快適な環境都市づくり (3)緑海に輝く活力都市づくり				
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津町・志保村・上野村・山田村・高根村・高根村の合併 ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 				
主な施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市立第一中学校 ● 草津市立第二中学校 ● 草津市立第三中学校 ● 草津市立第四中学校 ● 草津市立第五中学校 ● 草津市立第六中学校 ● 草津市立第七中学校 ● 草津市立第八中学校 ● 草津市立第九中学校 ● 草津市立第十中学校 ● 草津市立第十一中学校 ● 草津市立第十二中学校 ● 草津市立第十三中学校 ● 草津市立第十四中学校 ● 草津市立第十五中学校 ● 草津市立第十六中学校 ● 草津市立第十七中学校 ● 草津市立第十八中学校 ● 草津市立第十九中学校 ● 草津市立第二十中学校 				

3. 時代の潮流

① 人口構造と社会

少子・高齢化が進み人口減少の時代に至ったことで、社会保障制度をはじめとする日本社会の仕組みの根幹が揺らいでいます。また、家族規模の縮小や“孤族化”などによって、とりわけ子育て期や高齢期の生活課題がより深刻なものとなってきています。

こうした人口や世帯の構造的な変化に対応し、今後とも安定的に存続・発展できる社会としていくため、人口増に応じて社会資本整備を進めた「成長型社会」から、「選択と集中」によって既存の社会資本をより適切に活用する「成熟型社会」へと転換し、地域社会の連帯を強めていくことが急務となっています。

※ **孤族化**：“孤立”した“家族”となるというほどの意味の造語。家族や地域のネットワークから生活が孤立していることで、様々な生活課題が強調されやすい。

② 地方分権と市民自治

国主導型から住民主導・地域主導型の行政へと地方分権が進み、さらに、国においては、第二期地方分権改革として、道州制などを含めた、さらなる分権が検討されています。各自治体には、こうした背景のなかで、「自主」「自立」を前提とした「自律」への変革が迫られ、地域経営の視座に立った新たな行政システムをつくることが求められています。さらには、身近な地域の自治を地域住民が自律的に行う時代も視野に入れながら、市民と行政、市民と市民など多様な「協働」を基軸とする市民自治の体制を本格的に準備していくことが重要となっています。

※ **第二期地方分権改革**：地方分権改革は、平成7年の地方分権推進法の制定から、平成18年の三位一体の改革までの一連の改革を第一期改革と捉えることができる。第一期改革を未完の改革とし、さらなる地方分権改革の推進のため、平成18年12月の地方分権改革推進法の制定によって第二期分権改革が始まっており、基礎自治体が「地域づくりの主役」となれるような体制の整備に向けた検討などが進められています。

※ **道州制**：現行の都道府県制度を廃止し、複数の都道府県を統合した「広域行政体」＝「道州」によって自律した自治の体制をつくる制度をいう。

③ 地域経済と都市間連携

地域経済の骨格をなすもののうち、製造業等は世界経済の変動に大きく左右され、商業等は人口減少に伴って大都市圏以外で顕著に落ち込むことが見込まれています。こうしたなかで、今後の地域経済を持続的に発展させていくためには、地域経済のまとまりを重視して都市間連携のもとで都市構造を合理的なものに再構築するとともに、少子・高齢化に対応した地域商業等の育成と競争力のある工業等の重点的振興を図っていくことが求められます。

④ 地球環境と暮らし

地球温暖化や熱帯林の減少、酸性雨、オゾン層破壊など、多岐にわたる地球環境問題、資源・エネルギー問題などは、私たちの日常生活、あるいは企業活動、経済活動と深く関わっており、その解決に向けて大量生産・大量消費型社会から省資源・資源循環型社会への転換が進められています。今後さらに、エネルギー利用などおける新しい技術の開発・利用と併せて、それぞれの風土などの地域特性を生かして持続可能なまちづくりを創造していく必要性が高まっています。

⑤ 情報技術とコミュニケーション

インターネットや携帯電話などの情報通信技術の発達と普及により、私たちの生活は飛躍的に便利になってきています。一方で、拡大する情報格差の解消や、これら技術を適切に活用できる力を誰もが身につけられる仕組みづくりの重要性も大きくなってきました。

高度情報化は、国や言語などの壁をも超えたコミュニケーションを広く個人のものとしつつあり、互いに認め合う文化がいつそう社会に浸透していくなかで、一人ひとりが「個性」と「表現」を大切にする価値観へと結びついています。こうした動きは地域へと広がって、地域の魅力を生み出し伝えるものとして、生活に根ざしたコミュニティ・メディアの役割と可能性が高まってきています。

⑥ 多文化共生と地域文化

「グローバル戦略」に基づく取り組みによって外国人労働者や留学生が年々増加しており、国内への定住も進んでいます。こうしたなか、生活習慣など文化的背景が異なる在日・滞日外国人の人権と生活を守り、地域社会でともに暮らしていけるよう、社会の仕組みやサービスの提供などに関する対策が求められています。

そして、異なる文化を大切にす多文化共生社会として、地域の文化をさらに高めていくことが望まれます。

※ **グローバル戦略**：「日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大」し、国際社会における日本の成長力・競争力の強化を図るための戦略として、平成 18 年 5 月に経済財政諮問会議により示されたもの。

⑦ 安全と安心

近年、世界各地で気候変動などに起因する大きな被害が頻発し、我が国でも地震や台風などによる災害が多発しています。さらには、東南海・南海地震や琵琶湖西岸断層帯等を震源とする地震の発生予測などにより、災害への備えについての関心が高まっています。地域社会と日常生活の身近では、子どもが被害者となる犯罪や、食の安全性への不信につながる事件の続発、新しい感染症の発生とその世界的流行の可能性の拡大など、暮らしの安心を脅かすさまざまな現状があります。

安全・安心な社会づくりに向けて、市民一人ひとりの危機管理に対する意識の醸成と地域社会における市民相互のつながりを再構築しながら、危機管理に対する社会の仕組みを強化していくことが重要となっています。

4. 国・県の動向

国・広域圏の動き

国土形成計画法に基づく「国土形成計画（全国計画）」（平成 20 年 7 月閣議決定）では、国土像を「多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土の形成を図る」として、その実現のための戦略的目標、各分野別施策の基本的方向等を示しています。現在、「国土形成計画（全国計画）」に対応する広域地方計画として「近畿圏広域地方計画」の検討が進められています。

滋賀県等の動き

平成 19 年 12 月に「未来を拓く共生社会へ」を基本理念とする「滋賀県基本構想」を策定し、構想実現に向けて「人の力を活かす」「自然の力を活かす」「地と知の力を活かす」の 3 つの戦略と 14 の重点的な施策、「暮らし」「経済・産業」「環境」「県土」の 4 分野から着実に展開していく施策を打ち出しています。また、草津市を含む大津湖南広域市町村圏協議会では、「大津湖南地域広域市町村圏計画（平成 13～22 年度）」を策定し、圏域の将来像を「人と環境が調和し、未来に羽ばたく『大津湖南』」と描いて取り組みを進めています。

5. 主要な課題

① “出会い”に市民文化の高まりを

本市は、これまでのまちづくりによって「人口が集まるまち」としての一定の条件を作り上げてきており、市内には、歴史に培われ地域の暮らしになじんだ文化と新しくもたらされる様々な文化が出会う機会がますます広がっています。

こうした“出会い”の広がりを生かして、人と人が互いに認めあい、市民文化のさらなる高まりを生み出し続けるまちとなっていくことが求められます。

② 人が学び育つ環境を

世代を超えた様々な人の関わり合いのなかで、未来に夢と希望を導く次世代を育むことが求められています。既に取り組んでいる地域協働合校や各種スポーツ活動を始めとして、家庭、学校、地域や企業・大学等との連携をいっそう進め、生涯を通じた、幼少期からの「人が学び育つ環境」を本市のなかに充実させて、“未来の担い手”がいっそう輝くまちとなることが望まれます。

③ 健やかな子育て支援と高齢期にある人の社会参加を

子育て期にある世帯の転入が進む中で、子どもの健やかな育ちの支援ニーズが急増しており、その対応が課題となっています。

また、“団塊の世代”が高齢期を迎えたことで、医療や介護等に要する社会負担が従来にない大きなものとなります。

そのため、健康増進と介護予防、高齢期にある人の社会参加の促進等が重要な課題となっており、限りある医療・福祉等の社会資源を有効に活用することが求められています。

④ まちにうるおいとなる調和と秩序を

人口増加などに伴う市街化が急速に進んだ結果、琵琶湖や農地、山林、旧草津川などの土地利用において、より適切な保全と活用を図っていくことが重要となっています。

また、都市施設などの整備にあつては、持続可能で環境と調和した都市空間や良好な景観の形成やまちなりのおいづくり、地域社会の秩序を守っていくことなどを重視していく必要があります。

⑤ “歩いて暮らせる” まちを

市街地の拡大や郊外での大型商業施設の立地などにより、これまで以上に自動車依存が強まるライフスタイルが広がっていますが、超高齢社会を目前にして、誰もが安心して地域で暮らせるため“歩いて暮らせる”まちへと転換していくことが望まれます。

そのため、既存の商店街や大規模商業施設などを活かしながら、人が歩いて行動できる範囲内に日常生活に必要な基本機能が配置されるよう誘導し、市街地中心部には都市機能を集約的に整備して、これらを円滑につなぐ歩道・自転車道や公共交通のネットワークを充実させる必要があります。

⑥ 充実した都市機能のいっそうの活用を

新名神高速道路の整備などにより、本市は近畿圏、中京圏の両大都市圏を結びつける要衝の地として国内屈指の交通条件を有しています。JR草津駅・南草津駅周辺にはまちなりの中心としての都市機能が集まり、東南部丘陵地などには県内有数の高度な研究・開発や新産業育成等の機能が集まっています。

これら都市機能の集積を最大限に生かして、市内に新しい産業や雇用を生み出し、さらに存在感のあるまちとなっていくことが望まれます。

⑦ 地域課題に対応できる地域コミュニティを

人口増加を続ける本市では、人口特性が小地域単位で様々となっています。そのなかで、高齢期を迎えた人や、子育て期にある人の多い地域があり、日常生活への支援や子育て・子育ての見守りなどが重要となってきています。

これら地域の福祉のほか、防犯・防災、環境など地域の課題への対応においては、町内会などの地域コミュニティをはじめとして、ボランティア、NPOなどの市民活動団体が果たす役割が大きいため、それらの活性化とネットワーク化を図っていく必要があります。

⑧ “新しい段階の市民自治”への準備を

将来的には、身近な地域づくりを地域が責任をもって主体的に行う“新しい段階の市民自治”が進むことが予想されます。

本市は、これまで市民・地域・大学・企業・行政等の「協働」により様々な“担い手”と広く出会いながらまちづくりに取り組んできていますが、その成果を基礎として、さらに拡充を図って、自治への市民意識を高めながら、“新しい段階の市民自治”への準備を進めていく必要があります。

⑨ 市民とともに担う地域経営への転換を

義務的経費の増大などによって本市の財政状況の硬直化が進む一方で、市民のニーズはますます多様化し拡大しています。そのため、本市に今ある資源を有効に活用し、近隣都市とこれまで以上に連携もしながら、限られた財源を有効に用いて、地域社会にとって本当に大切なことを市民とともに考え進める「地域経営」を行う必要があります。

※ **義務的経費**：一般歳出における人件費・扶助費・公償費。反対に「投資的経費」は、その支出の効果が中長期的で、固定的な資本の形成に向けられるもの。

基本構想

基本構想は、

- これからの草津市のまちづくりを、市民と行政と一緒に構想し共有するものであり、議決を受けて策定するものです。
- 草津市が将来に求める姿である「将来ビジョン」を掲げます。
- 「まちづくりの基本方向」として、構想期間におけるまちづくりの基本的な目標と方向を示します。

この基本構想の期間は、平成 22 (2010) 年度から平成 32 (2020) 年度までとします。

1. 将来ビジョン

(1) 将来に描くまちの姿

私たちは、さまざまな出会いに満ちて“住みごたえ”があり、“草津の市民”としての自負と草津市への愛着が感じられる将来の草津市を次のように構想します。

キャッチフレーズ『

』

こころざし高く

こころざし高く、恵まれた環境が守り生かされ、そこに導かれる調和に、美しさ、豊かさ、心地よさ、空間のゆとりと生活の便利さが生み出されています。

出会いと交流に輝き

その中では出会いと交流に満ちて、誰もが、互いを尊重し認めあい、学びあい磨きあって、“受け継いだもの”と“もたらされたもの”の交わりに心を遊ばせ、元気に輝いています。

憧れと親しみ

その輝きは、人から地域、産業などへ行き渡ってまち全体の活力となり、草津の気風・文化などに、誰からも憧れと親しみを集める“新しい価値”を創り出しています。

協働による市民自治

市民・地域・大学・企業・行政等の「協働」を基軸とした市民自治の仕組みが丁寧に組み上げられて、地域の中で誰もがそれぞれの責任のもとでまちづくりに参画しています。

自律した地域経営

さらに、このようなまちを将来にわたって持続的に発展させていくため、「選択と集中」「連携」を大切にした、自律する地域経営が安定的に行われています。